

令和6年度使用小学校教科用図書調査研究報告書

教科用図書 種目(図画工作)(2 - 1)

発行者の番号・略称		番号			略称		開隆堂	
使用学年		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年	
教科書番号		1 0 5	1 0 6	3 0 5	3 0 6	5 0 5	5 0 6	
項 目		所 見						
教 科 共 通	1. 単元題材の 選定及び 組織・構成	題材の選定は、造形遊び18、絵画表現や工作・立体表現105、鑑賞37であり、学年系統と発達段階にあった題材、素材を意識している。表紙に学年のテーマが大きく書かれており、子どもが興味を引くメリハリのあるレイアウトや効果的な背景のカラーの工夫がなされている。子どもが楽しく取り組めるように各ページが遊び心のあるデザインの作品のような構成となっている。製作の流れを細分化し、児童が製作している写真などを使って工程をしめしている。左上部は、テーマとめあて、下部はQRコンテンツやふりかえり、かたづけなど、わかりやすい表示となっている。字の太さ、大きさなどに変化をもたせている。						
	2. 文章表現、 資料	<p>① めあての項目にキャラクターを使い、子どもに語りかける表現となっている。QRコードのリンク先には動画もあり、キャラクターが解説してくれる。3つの観点から特に重点をおくべきめあては赤字で記されており、課題として焦点化しやすい。「かたづけ」「ふりかえり」「あわせて学ぼう」の視点も表示されており、めあてとも対応している。ワークシートもあり、その単元で培った資質、能力を確認するふりかえりができる。</p> <p>② QRコードの扱いは、主に題材に見通しを持ち素材の扱いを理解するための導入時の動画「はじめに」と、作品例を示した「作品」が特徴であり、5、6年では、未来へつながる図画工作として社会で活躍する人々への「インタビュー」動画が扱われている。</p> <p>③ 安全、道具の扱いへの配慮においては、図と段階や手順を追った文章、目的に合わせて扱えるよう紹介がなされている。危険マークとともに、どうすれば安全に制作できるかのコツが表示されており、片付け方へのアドバイスも添えられている。</p>						
	3. 挿絵・図表	① 参考作品としての中心となる子どもの作品や作家の作品が大きくレイアウトされている。鑑賞作品の扱いにおいては、作者名、時代、大きさ、所蔵場所等が明記されている。造形遊び158点、絵や工作、立体941点、鑑賞245点。						
	4. 紙質・造本	色彩や線、素材感の伝わる上質コート紙。						
教 科 独 自	5. 共通事項 ・造形遊び ・絵や立体、工作 ・生活の中の造形 ・鑑賞活動の在り 方	<p>① 造形遊びは、自然物や人工物を扱ったインスタレーションを含めて色、形、素材にふんだんにひたる内容となっている。</p> <p>② 絵や立体、工作では、材料、素材、技法、視点が多様である。ICTも活用する内容となっている。</p> <p>③ 鑑賞の対象に位置付けられた生活の中の造形については、学習をふかめられるように、地域の伝統芸能、産業や、身近な道具、標識などの用と美について扱っている。</p> <p>④ 「あわせて学ぼう」で教科と単元名も含めて教科横断的なつながりを明示している。SDGsに関する観点、キャリア教育に関する観点を題材と関連させたものもあり、図工と身の回りの事象、社会問題などと関連付け、つながりを意識したテーマの提示も感じられる。</p> <p>⑤ 海外の親しみのある美術作品、日本の代表作品、昨今注目を浴びる作品もテーマと共に掲載。</p>						
	6. その他 (地域の特殊性につい ての配慮)	みんなのギャラリーでは、大分も含め、日本各地の芸能、地域素材等が扱われている。3、4年生では、大分の郷土の石から作った絵の具、別府竹細工などの扱いがある。その他にも水墨画など題材や素材として郷里の作家の作品とつなげられそうなものがある。						
7. まとめ (特色及び総合所 見)		授業を組み立てやすいよう工夫がされている。参考作品の大きさや写真の大きさと見やすいレイアウトによって子どもが見ていて楽しい教科書になっている。キャラクターが単元で大事なことを話すことで子どもに伝わりやすい。QRコードの中身が具体的に表示されているので、どんなコンテンツが利用できるかがわかる。						

令和6年度使用小学校教科用図書調査研究報告書

教科用図書 種目(図画工作)(2 - 2)

発行者の番号・略称		番号	1 1 6			略称	日文
使用学年		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年
教科書番号		1 0 7	1 0 8	3 0 7	3 0 8	5 0 7	5 0 8
項 目		所 見					
教 科 共 通	1. 単元題材の 選定及び 組織・構成	題材は、造形遊び19、絵や立体、工作100、鑑賞22であり、学年系統性と発達段階にあった題材、素材を意識している。左上部にテーマとめあて、下部にかたづけやふりかえり、QRコードが掲載されている。1つの題材に対して、写真や参考作品の資料、発想の手がかりになる記述や図版が多数掲載されており、多くの情報を整理したレイアウトである。1年生では、スタートカリキュラムを意識した構成になっている。文字の色に変化を持たせている。					
	2. 文章表現、 資料	<p>① めあての項目を統一したマークにすることで視覚的にわかりやすく指導の指標になるようにしている。特に大切なめあてのヒントは枠で囲み、わかりやすくしている。学習のめあては3つの観点でかかれている。子ども視点のふきだしが参考作品に添えられ、「かたづけ」「ふりかえり」の視点も表示されている</p> <p>② QRコードの扱いは、主に、道具の扱いと、背表紙にある図工ギャラリーにおいて小学生が製作した多くの作品が鑑賞できる。資料は拡大して見ることができる。</p> <p>③ 安全、道具の扱いへの配慮においては、巻末の「ざいりょうと用ぐのひきだし」のコーナーがそれ自体美しく洗練されたアートのような提示がされており目を引く。目的に合わせて図表と手順を追った文章と写真もあり、非常に丁寧に説明している。</p>					
	3. 挿絵・図表	参考作品としての子どもの作品や作家の作品が大きくレイアウトされている。巻末にミニアートカードがあり、国内外の名作についての簡潔な説明も記載され、アートカードを使った鑑賞活動も紹介されている。平和をテーマにしたゲルニカなどの作品の提示がある。					
	4. 紙質・造本	色彩、線、素材感が鮮やかに伝わる上質コート紙。					
教 科 独 自	5. 共通事項 ・造形遊び ・絵や立体、工作 ・生活の中の造形 ・鑑賞活動の在り 方	<p>① 造形遊びは、自然物、インスタレーション、コンテ、水墨などを扱っている。</p> <p>② 絵や立体、工作では、材料、素材、技法、視点が多様である。ICTの利用や動画作成もとりあげている。</p> <p>③ 鑑賞の対象に位置付けられた生活の中の造形については、プログラミングで空間を生み出すプロジェクションマッピングや、制作を続ける人々の思いをインタビューしたものがタブレットで読み取り、見れるようになっている。</p> <p>④ 右下に「つながるまなび」として、単元と関連した教科を掲載し、かたづけの項目で、「材料が余ったらとっておこう。」などのSDGsとのつながり記述がある。他者理解の視点に重きをおいている。</p> <p>⑤ 世界と国内の名画が掲載されている。</p>					
6. その他 (地域の特長性についての配慮)		高山辰雄の作品「たべる」と小鹿田焼きが紹介されている。 大分県立美術館のワークショップが紹介されている。					
7. まとめ (特色及び総合所見)		背表紙にある「みんなの図工ギャラリー」において子どものたくさんの作品例を見ることができる。 日本のいくつかの美術館をQRコードで見ることができる。また、作品を拡大バージョンも見ることができる。道具や基本的な作品作りの手法が丁寧に表記されているのが特徴的である。					